

旭陵関西

発行人 旭陵同窓会関西支部長 上村 繁典
印刷所 富士精版印刷(株) TEL. 06-6394-1181

「少しの感動」



旭陵同窓会関西支部長 上村 繁典 (48期)

日本の養蜂業はあと10年経つと蜂蜜の供給が追いつかなくなり養蜂業は危うい状況です。ミツバチが体力を尽くして作った「はちみつ」は純度100%の貴重な資源なのです。と水谷養蜂園水谷社長のお言葉。皆様もほとんど知らない蜂の驚くべき世界を少々お話しさせていただきます。

植物のおしべ・めしべの交配は風もありますが90%はミツバチが行っています。ミツバチがいなければ花は咲かないという事になります。ミツバチは採取してきた花の蜜を体内から出す酵素と合成させて天然の蜂蜜を作ります。体力を消耗するため寿命はわずか4週間、作れる蜂蜜の量は小スプーン1杯。そして働くミツバチは全て雌です。何十万というミツバチの中からローヤルゼリーを食べた1匹のみが女王蜂になり7年間生存します。女王蜂は地位が高い位置づけでなく産むための存在のようです。ミツバチを産むためにまず、500匹の雄蜂を産みます。女王蜂は400メートル高く飛び、それに追いつける1匹の雄蜂の元で無数のミツバチを産みます。そして雄蜂は全て死ぬこととなり競争社会は我々の世界と変わりな

い厳しさを感ずります。

養蜂家はトラックにミツバチの巣箱を何個もつめて花の咲く順番に南から北海道まで移動し、蜜を採取します。ミツバチは太陽光を感じて巣箱に戻りますので雨の日は飛びませんし、箱を移動させたら戻ってこられません。

異常気象で花が日本中同じ時期に咲いてしまい採取量が減ってきていますし、農業によるミツバチの帰巣機能の消失、海外市場での中国の一極集中、日本での「はちみつ」資源はどんどん減少してきます。反対に花を咲かせるためのミツバチ貸与依頼が増加して新たな市場が出来始めているのが現状のようです。

ミツバチの自然摂理への感動、8月の総会も少しの感動が与えられれば良いかなと思っています。是非出席賜り嬉しい一日を過ごして頂けたらと思います。

西高創立100周年に向かって



旭陵同窓会会長 木下 毅 (37期)

平成28年度旭陵同窓会関西支部総会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

旭陵同窓会の会長になってもう5年目になりました。下関西校創立100周年記念事業として旭陵館(セミナーハウス)を建てる予定にしています。現在少し手直ししているところです。

新たな歩みを始めます



山口県立 下関西高等学校校長 首藤 裕司

旭陵同窓会関西支部の皆様には、御健勝にて御活躍のことと心からお喜び申し上げます。

昨年は関西支部はじめ各支部の同窓会に出席し、全国各地で多くの旭陵同窓生の方々が活躍されていることを知るとともに、母校に対する熱き心に触れさせていただきました。「天下第一関」の校是のもと、まもなく百周年を迎える伝統の重みを深く感じた次第です。母校への物心両面での御支援に心から感謝を申し上げます。

さて、今春も新たに250名が卒業し、同窓会の会員となりました。この春の卒業生の進路実績は前年度同様に、難関大学をはじめ希望する大学へ多くの生徒が進学しました。これらは、生徒一人ひとりが自身の進路と真摯に向き合い、「夢の実現」に向けて不断の努力を重ねてきた結果です。この一年、様々な場面で西高生

の素晴らしい姿を見ました。学習はもちろんですが、部活動にも旭陵祭や体育大会等の学校行事にも全力で取り組んでいる姿は、校長としても誇らしい限りです。これらの活動から得られる達成感や仲間との信頼関係は、新たな自分の発見や成長に確実につながるものだと私は確信しています。

変化が大きく、先が見えないといわれる時代であり、人工知能の発達や情報化の更なる進展など、社会の仕組みや職業のあり方も大きく変わってきています。そのような中、学校教育においても学びの質の転換が強く求められています。本校も地域の進学校として、この役割をこれまで以上に果たすべく、伝統を守りつつも能動的な学校運営を行うために、新たな学域である「探究科」を設置する方向で現在準備を進めています。歴史ある「理科」の成果を踏まえながら、知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視した教育活動で、これからの社会に真に必要とされる人材の育成を図りたいと考えています。旭陵同窓会の皆様方には、母校の新たな歩みに対し格別の御理解、御支援をいただきますようお願いいたします。

免税になる寄付金を秋頃から2年間で集める予定です。ご協力をよろしくお願致します。

名簿は皆様のご協力により昨年末に発行できました。プランクが長かったのと個人情報関係で住所漏れなどの不手際があり申し訳ありません。名簿の購入がまだの方は購入をよろしくお願致します。

私は、今年の11月の誕生日で後期高齢者になります。年甲斐もなく下関市医師会長をすることになりました。下関市は高齢化先進都市で若者の減少もあり人口が減ります。このような環境で医療・介

高関 平成28年度 旭陵同窓会関西支部総会案内

■日時：平成28年8月21日(日) 10:30~15:00

■場所：ブリーゼタワー内 BREEZE PLAZA(ブリーゼプラザ)
〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 ブリーゼタワー 7-8階 ☎06-6344-4888
(地下鉄四つ橋線西梅田駅より徒歩3分、JR大阪駅、阪神梅田駅、JR東西線北新地駅より徒歩5分)

■来賓：木下同窓会会長、本部役員、首藤校長
■会費：8,000円(家族3,000円、82期以降2,000円)
■式次第：10:30~11:00 総会

軽装・ノーネクタイで
ご出席下さい

ブリーゼプラザへのアクセス



※同窓生をお誘い合わせの上是非ご出席下さい。(ご家族の参加も歓迎)
※つり銭のいらぬようご準備下さい。
※なお、同封葉書にて出欠の連絡を7月24日までにお願いします。(欠席の場合も名簿整理上必ず返信をお願いします。)
※回答後、出欠等の変更がある場合は、事務局まで必ずご連絡して下さい。
詳しくは旭陵同窓会関西支部のホームページ(<http://www.kyokuryo-kansai.jp>)をご覧ください。

11:10~12:30 特別講演 山下 友信氏(48期)

◆演題◆ 『法律はどのようにして作られるか』

◆要旨◆ 法律は国会の議決により制定されますが、そこに至るまでにどのようなプロセスを経るのかについてはご存知ない方も多いでしょう。ある法律を制定しようという発案をするのは誰なのか、利害のあるさまざまな関係者の意見はどのような仕組みで集約されるのか、法律案を起草するのはどういう人なのか、といったことなどです。これらの仕組みの中で、当然に妥協もあれば、法律であるとはいえ規定できることの限界もあります。この講演では、民事の基本法である民法・商法の分野を中心に、明治時代の最初の法律はどのようにして制定されたのかということからはじめて、現代の立法の実情を紹介いたします。



山下 友信氏 プロフィール

1952年9月24日生まれ。山口県(角倉小学校、彦島中学校、下関西高等学校)出身。日本の商法学者。
・1975年東京大学法学部卒業 ・1978年神戸大学法学部助教授
・1992年東京大学大学院法学政治学研究科教授 ・新司法試験考査委員(2005年度~2008年度)
・法制審議会商法(運送・海商関係)部会委員・部会長(2014年4月~2016年2月)を歴任
・2015年東京大学名誉教授 ・2015年紫綬褒章受章

主な著書「商事法の研究」(有斐閣)2015年3月、「保険法」(有斐閣)2005年3月、「現代の生命・傷害保険法」(弘文堂)1999年11月ほか

12:30~15:00 懇親会

平成27年度総会の報告



当番幹事 三戸 和子 (62期)

平成27年9月6日に行われた旭陵関西の総会、ついに私たち62期に幹事の順番がめぐってきました。私が初めて旭陵関西の総会に参加したのは2000年。それから15年間、総会で出会った同級生は1名だけ。関西在住の同級生数名ともなんとか連絡をとることができたものの、みなさんお忙しく参加不可と。しかし捨てる神あれば拾う神あり。本町の山口県料理のお店の落書き帳のご縁で、56期中谷さんが、62期岡部さんを発掘？して下さいました。中谷さんは他にもネットワークを駆使し、次年度幹事の63期も探し出して下さり、感謝感激です。

会場は、前年までお世話になった弥生会館が建て替えのため、59期濱岡さんのご紹介で梅田のブリーゼプラザとなりました。当日、第1部の総会は、役員

の先輩方と岡部さんにおまかせし、私は受付で待機。第2部特別講演会は、桐村晋次先生(33期)による「松下村塾の人材育成法と現代への応用」志士をはぐくんだ下関の風土」でした。今年は大河ドラマ「花燃ゆ」で吉田松陰の妹がヒロインのため、タイムリーなテーマでした。私も予習として大河ドラマを毎週録画し、事前に桐村先生の著書「吉田松陰 松下村塾 人の育て方」(あさ出版)を読んでみました。西高時代に私は「理系だから日本史は要らない」と現代社会(必修)と世界史のみ選択。お恥

ずかしいことに、日本史や大河ドラマが面白いと思い始めたのは三十代後半から。吉田松陰の肖像画から、つきり60歳を過ぎていた人だと思いついていました。二十代の若造が作った塾しかも松陰が指導したのはたった2年4ヶ月。萩に特別頭の人ばかりが生まれてきたとは考えられないし、あの小さな建物から日本の歴史をひっくり返すような人物を続々と輩出したのは、やはり教育スタイルが素晴らしいからですね。

実は、桐村先生は歴史学者ではなく、ずっと企業マンとして人材育成にかかわってこられた方です。松陰の「ともに励みましょう」「あなたの志は何か」「あなたは何のために学ぶのか」という言葉、上から下への一方通行の講義ではなく、お互いの得意分野を教えあったり、少人数でディスカッションし、この状況におかれたら「君ならどうするか」を常に自分の頭で考え、実行することの大切さを説いた姿勢、おそらく桐村先生もずっと実践してこられたことと思います。会の

進行上、講演時間が短くなってしまう、もつといういろいろお話をうかがいたかったのに、と残念でもありましたが、桐村先生の気さくなお人柄に、みなさん引き付けられたことでしょうか。さて第3部は懇親会。料理を置く場所が1か所になり、大行列となつてしまいました。みなさんオトナの対応をしていただけでよかったです。恒例の福引きも、スポーツシャツや傘、お菓子、そして「味鉄」さんのお肉！と多くの方々喜んでいただきました。芸達者な先輩方に校歌斉唱やエールを仕切っていただき、盛会に終わることが出来ました。

2000年当時、旭陵関西支部長だった甲斐敏晴先生は、「三戸君、小中高大ぜんぶ同じ学校っていうのはたぶん僕ら二人だけやなあ。君が結婚するまででいいから、とりあえず旭陵の役員会に入っとけ」と、以来同窓会でも仕事上でも、ずいぶんと気にかけて可愛がって下さいました。2013年に甲斐先生はこの世を去られ、私が役員会から足を洗う機会も訪れないまま、ついに幹事学年を迎えました。少しは甲斐先生のご恩にお返しできたかなあ、と思うのです。



当番幹事 岡部 和弘 (62期)

平成27年度の旭陵同窓会関西支部総会の当番幹事として、総会・講演会の司会進行役を務めさせて頂きました。今回は、雨模様で新会場ということもあり、出だしから10分遅れのスタート、講演会では皆様が最も楽しみにされていたであろう桐村先生のご講演時間をやむをえず短縮、



下関市総合政策部 企画課 野田 広一

「スローライフに是非、下関を」

下関市企画課の野田と申します。平成27年度関西支部同窓会に参加させていただきありがとうございます。私は、北九州市出身ですが、旭陵同窓会関西支部の皆様から温かく接していただいたり、励ましのお言葉を頂戴いたしました。感謝の気持ちでいっぱいです。また皆様から、ふるさとしものせき応援寄附金のご寄附をいただき、本当に有難うございます。心からお礼申し上げます。

さて、昨今、国を挙げて力を入れております定住の促進に、本市も取り組んでいるところでありま

皆様の質問時間をカットと、時間が押ししていたとはいえず申し訳ございませんでした。来年以降は、時間配分に重々配慮して臨ませ

移住者新築住宅 購入支援助成金 最大100万円相当を支援
下関市内に住宅を購入・建築し、「移住」する方を支援します。
※各補助金の受給には要件等がありますので、詳しくは下記までお問い合わせください。
お問い合わせ先 下関市総合政策部企画課 083-231-1911
sskikaku@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

届けたい、お菓子という夢。
Making Communications Together
MACOTO 誠
菓子食品総合商社
株式会社 誠商会
〒578-0957 東大阪市本庄中2-1-2
TEL 06-6748-3838
代表取締役CEO 上村 繁典(48期)

万が一ガスが漏れたとき、ガス漏れ検知警報器が発報しなかったら、大事故につながります。警報器の点検整備は当社にお任せください。
有限会社 西村電機サービス
取締役会長 西村 勲 (33期卒業)
〒599-8253 大阪府堺市中区深阪 6-7-26
TEL(072)236-9508 FAX(072)230-2204
携帯 090-4295-4857
E-mail info@nds-mente.co.jp
ご家庭からコンビナートまで明日の安全を見つめています。



木下同窓会会長挨拶



判野本部幹事長挨拶



上村支部長挨拶

平成27年度
第22回総会
 於:BREEZE PLAZA(ブリーゼプラザ)
 平成27年9月6日(日)



首藤校長挨拶



集合写真



乾杯



校歌斉唱



集合写真



エール



エールの交換



集合写真



桐村氏サイン会



二次会



旭陵同窓会オリジナルTシャツ



元法政大学教授
桐村 晋次 氏
(33期)

◆平成27年度の旭陵同窓会関西支部総会で、「松下村塾の人材育成法と現代への応用」志士をばぐんだ下関の風土」と題する講演の機会をいただき、沢山の同窓生に私の話を聞いていただき有難うございました。

◆1937年(昭和12年)に西細江で生まれました。近くの桜の名所日和山に高杉晋作の大きな立像がありました。1945年(昭和20年)7月の米軍機による空襲で生家が焼失し、長府の鳥居前に引越しました。家から歩いて10分くらいのところに晋作挙兵の地「功山寺」があり、子供の頃はチャンバラ

◆講演者からひとこと◆

◆ごっこの遊び場でした。そういうことで、維新で長州の先輩たちが活躍したことは何となく耳に入っていました。本格的に関係の書籍を読み出したのは、帰郷した折に郷里の先輩古川薫さんの「長州歴史散歩―維新のあしあと」を手にしたことでした。強い感動を覚え、古川さんのお宅を訪ね教えを受けました。大阪の万国博覧会(1970年)の頃です。

◆松下村塾の門下生の一人一人の育ち方を調べ、その背景にある社会経済の影響を考察し、ある時代はその時代の産物であること、その前の時代もそれ以前の時代の産物であることがわかり、研究対象はどんどんさかのぼっていききました。

◆西高の級友である安野洋一君(京都府立医科大学教授)が松陰の母の実家の血筋であることや会社の後輩の姉が毛利家の現当主に嫁しているなど、楽しいエピソードにも出会いました。以上

同窓会・クラス会・OB会など
 各種ご宴会、会議等で、ぜひご利用ください。

20名様から200名様まで
ブリーゼプラザ

西梅田駅より徒歩3分

〒530-0001
 大阪市北区梅田2-4-9ブリーゼタワー7F・8F
 ご予約・お問合せは 06-6344-4888



BREEZE TOWER
ブリーゼタワー

支部行事報告

秋のハイキング

中野 善朗(44期)

東海自然歩道は東京の高尾山から、箕面の明治の森まで続く。その終着(或いは起点)の国定公園箕面の滝を経て勝尾寺までの往復十三キロの行程が今回の旭陵会秋のハイキングとなった。阪急箕面駅に集合して、まずは滝までの三キロ弱を歩き始めた。紅葉には時期が合わなかったかもしれないが、しかし名物の紅葉のてんぷらは道筋のどの土産物屋にも、余り旨くもないだろうが、揚げ立てが今が食べ頃のように並んでいた。関西在住の我々はそんなものには目もくれずに進んだが、やはり行楽地としては関西有数の地とあって、時期も加わってか、まるで心齋橋を歩く様だとちと言い過ぎかもしれないが、何十年ぶりに訪れる者としては大勢の人波に驚いた。



坂道を...

今回のハイキングには、いつもの様な旭陵会会員のみならず、関西支部の了解の元に「彦中同窓会とその仲間たち」七名も参加をさせて頂いた。仲間達は旭陵会が二名で、他参加は四四期の同期の宇部高専組で、たぶんそちらに進まなければ西高生であっただろう。仁ばかりであった。支部の懐の深さに感謝である。

滝までの行程はさほど難行ではなかったけれど、旭陵会先輩の中の三十期女性の意気軒昂な先輩は、すこしだけ足元が滑りそうだったので、「仲間達」の中のフェミ



集合写真

ニストを自負する同士がしっかりとサポートをさせて戴いたが、結局行程の最後まで踏破されたのはご立派でした。こもりとした木々の茂みと、ひんやりとした川の流れの心地よさの終に人混みの多い滝に辿り着いて一呼吸したは良いけれど、ここが終点ではなく、実はここからが苦行の始まりであろうとは。滝から上へ、急な坂をスイッチバックよろしく登りつめて、上の府道四三号線からが勝尾寺への道。やはりシーズンらしくドライプロードは一方に規制され、路肩駐車する舗装道をウォーキングする。歩く、歩く、歩く。団塊の世代である我々は一種独特のバイタリティーを持っている。過激な過当競争を生き抜いてきたお陰と思える。健脚、健脚、音を上げない。だからと登る坂道を歩き詰めて少し下りにかかると、その先に寺社の屋根が見えた、勝尾寺である。側溝にうずくまる人懐っこい狸に迎えられて寺に入って弁当昼食のために個々に散会し解散となったが... 同じ復路をまた元気に歩き通し、いつもの様に駅前居酒屋にて飲み会付きではあった。

秋のゴルフ

旭陵会ゴルフに優勝して

白石 光憲(43期)

去る10月10日に行われた旭陵関西ゴルフコンペで思いがけず優勝させていただき、味鉄さんのステーキ肉をゲット、大変喜んでいきます。ただ今回のゴルフはハンデに恵まれての優勝なので嬉しさ半分恥ずかしさ半分といったところです。

ゴルフは7割の力でスイングするというのが理想のようですが、私は仕事も遊びもいつも全力のせいか、クラブを目いっぱい振り回し、結果としてミスをする事が多々あります。常々ゴルフは人生の縮図のようなものだと思ってきました。

私はゴルフはプレー以外にこんな楽しみ方をしております。第一はスコアをエクセルで管理し平均

春のハイキング

大野 浩史(53期)

今回のハイキングは、役員が考えたコースではなく、京都・観光文化検定試験に合格されている私の会社の先輩に推奨されたコースを歩きました。私の先輩へのオーダーは、花見のシーズンに観光客が多い京都で人が少なく桜の花を満喫でき、かつ高年齢の参加者に負担が少ないコースでした。先輩から推奨して頂いたコースは、四條河原町から高瀬川沿いを南に下って、東福寺まで行くコースでしたが、もう少し下がって、伏見稲荷大社まで伸ばしたコースにしました。

当日は暑くも無く寒くも無い晴天で、桜の花は満開でした。人が少なく、緩やかな下りの道でしたので、列が間延びすることなく、ゆつくりと桜の花を満喫しながら歩くことができました。

値を出したり、入賞など特記事項があるときは併記しています。特に所属のコース分はホール毎に数字を入力し、特にパーやバーディーが取れたホールは色を付けています。

またプレーしたゴルフクラブのボールメーカーを集め、これをメーカーコレクションブックで管理しています。時々眺めますとい



優勝の白石さん(左)

七条からは鴨川沿いを下って行き、ひかり公園へ。ひかり公園に着くとパーベキューをしていたグループが二組いましたが、満開の桜の木の下に陣取ることができました。先輩達がお持ち頂いたワインや日本酒やつまみを頂きながら、いつも通り昔話に花を咲かせて、昼食を取りました。

ひかり公園から九条まで下り、橋を渡って、疏水沿いの狭い道を歩いたのですが、美しい桜の木が続いているのに、全く人気が無かったのです。皆さんがマニアックなコースだと感心されていました。

最終地点伏見稲荷大社に到着し、千本鳥居。さすがに外国人が日本で行ってみたい名所のナンパワも外国人ばかりでした。一旦ここで解散しましたが、酒好きのメンバーですので、当然のように二次会へ。電車に乗って、

ろいろな思い出が蘇ってきて楽しいものです。昨年末に脊椎管狭窄症になり飛距離がめっきり落ちてきました。スコア面でこれ以上の改善を望むことはできそうにありませんが、健康のためだと思いい、できる限りゴルフは続けていくつもりです。



集合写真

伏見桃山にある神聖酒蔵が経営している鳥せい本店に行き、鳥料理と蔵出し生原酒を堪能しました。本日に最高の天気で最高のコースで最高の状態の桜の花を満喫できたハイキングでした。関西支部の皆さま、是非ハイキングにご参加ください。



集合写真

阿武山こどもクリニック

院長 岡本良三 (46期)

〒569-1041大阪府高槻市奈佐原2丁目3-22
TEL072(690)3225 FAX072(690)3226

西山眼科

院長 西山和夫 (44期)

〒552-0016
大阪市港町舳先2-13番地-24
(正規の住所ではありませんが、ご本人の希望です)

電話: 06-6576-0323

大阪市営地下鉄「朝潮橋」徒歩2分
やき鳥屋と酒屋の間





集合写真(源助)

1月31日(日)、旭陵同窓会関西支部の恒例の日帰りカニツアーに一七人が参加されました。朝7時45分、JR大阪駅構内のいかりスーパードーム前に集合。8時12分乗車早々、上村支部長の差し入れのおつまみと事前に手配していたビールが配られ宴会開始。ビールが無くなりかけると、いかりスーパードームで購入したワインも開け、一層会話が盛り上がりました。城崎温泉に着き、在来線に乗換え、佐津まで行き、民宿「源助」の迎えの車に乗って到着。既にポリウレムたっぷりのカニ料理が準備されていました。

日帰りカニツアー
永地 英仁(52期)

第13回 日帰り旅行
2016年1月31日(日)
於 城崎・佐津



カニ料理

カニ刺し、焼き(蒸し)カニ、カニすきと、さすがに「源助」のカニはおいしい。来島先輩と西村先輩の日本酒の差し入れもあり、会話は盛り上がりました。カニを食べると口数が減ると言われますが、旭陵同窓生には全く関係ありませんね。

佐津14時55分発の列車で城崎温泉へ移動し、外湯めぐりをするため、「まんたら湯」へ直行しました。私は16時半頃にお風呂から出ましたが、一緒に参加していた嫁さんが、なかなか出てこないで、中居さんに頼んで呼びに行ってもらいました。嫁さんがあがってきたのは16時50分で、集合時間の16時45分は既に過ぎていました。乗車する17時2分発の「こののとり24号」にも乗れないと思い、大野氏に電話し、先に帰ってもらおうように連絡しました。嫁さんは17時20分頃に乗るものと思い違いをしていました。城崎温泉駅に着いたのが17時10分頃で、2分程で会社へのお土産を買い、仕方なく17時17分発の「はまかせ6号」の自由席に乗りました。意外にも自由席は空いていて、ゆっくり座って帰りました。リュックサックに缶ビールが1本ありましたので、それをチビチビと寂しく呑みながら帰りました。大阪駅に着いたのが20時5分でした。とほほほほ……。

一緒に参加した役員をはじめ同窓生の方々には、ご心配をおかけして申し訳ありませんでした。とても反省しています。

48期の東京支部同期が秋の京都に参集してくれました

藤村 徹(48期)

東京地区の48期は毎年幹事持ち回りで旅行を楽しんでいます。今年も秋本番の11月28日、京都に一泊二日で足を伸ばしてくれました。

関西の有志5名も合流して総勢21名となり、祇園で豪華宴会が開かれました。

48期は上村関西支部長の同期にあたります。

今回の幹事は秋の褒章で紫綬褒章を受章された山下友信(東京大学名誉教授)でした。

1年前に幹事を決めていたとはいえ、参加者の皆は恐縮、且つお宴会は嬉しい受章のお祝い会となりました。

山下教授は4月から同志社大学で講義されており、東京から毎週通いで京都にいられているとのこと。独自の視点で企画された京都ツアーコースに皆感激、満足していました。

宴会では普段は聞けない褒章の裏知識など楽しく語ってくれました。

活動的な東京のメンバーのおかげで40年ぶりに会えた仲間も多く、関西在住組も楽しいひと時を過ごすことができました。同期とはいいものですね。

全国の同期が集まりやすいのは、観光名所という魅力を持っている



西本 恵美子
(62期)

「同窓会をもう一度発見しよう」

当番幹事を担当される旭陵63期生の皆様のご尽力に心より敬意を表します。

63期生の方々には結束が固く、昨年の東京支部総会には約20名の方が参加されたと聞いております。また今年度の幹事団にも4名の方がおられます。羨ましい限りです。

東京支部では毎年7月に、東京支部総会を都内のホテルで開催しており、該当年に50歳を迎える年次の卒業生が幹事の役割を担うことになっております。

本来ならば私達62期生が中心となって、総会まで準備を進めていくべきなのですが、卒業以来、学年全体での集まりも、縦のつながりもあまりなかったようで、諸先輩方が代表幹事のバトンを引き渡す者がみつからず、困り果ててお

なりました。今年の2月に入ってから、60期の先輩からご連絡をいただき、先輩方の多大なるサポートの下、代表幹事という大役を引き受けることになりました。

3月に入ってからフェイスブックを通じて、同期約30名となんとか繋がることができました。在学時はみなシャイだったのか、男子は男子、女子は女子でまとまっておらず、ほとんど口を利いたことがない者同士でしたが、大人になった今は普通に会話を楽しめる素敵なおじさん、おばさんに成長しており、とても嬉しく思います。

このような背景から、本年度は、62期生単独による幹事団が結成できなかつたため、60期から63期の有志が集う幹事団により、準備をして参ります。

今年の東京支部総会は、7月30日(土)にロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋蛸殻町二丁目)にて「同窓会再発見」をテーマに開催いたします。

本年度の旭陵同窓会東京支部総会は、自分自身の原点へ、故郷や



48期同期会(平成27年11月28日 於:京都)

関西なのかもしれませんね。皆さんの同期も関西に集まってみてはいかがでしょうか？

青春時代へと立ち返って、今一度語り合うことで、同窓会の素晴らしさと本質を再発見する、そんな、今の私たちの人生にとって、価値ある優しい時間にと考えています。

4月16日(土)に東京支部で開催するUnder 50の会と、6月18日(土)に下関で開催される旭陵同窓会本部総会にて、参加者の皆様へ「同窓会再発見」に関するアンケートインタビューをさせていただきます。それらのご意見をもとに東京支部総会で座談会などを企画したいと考えております。

7月30日に開催する東京支部総会への関西からのご参加も大いに歓迎いたしますので、観光も兼ねて懐かしい仲間との交流を深めていただければ幸いです。

最後になりましたが、今年の当番幹事を代表して、会の運営にご支援ご協力を頂いた方々への感謝を申し上げます。旭陵同窓会及び母校のますますのご発展を祈念させていただきます。

片山 啓 (48期)

院長 片山 啓 (48期)

〒657-0846 兵庫県 神戸市灘区岩屋中町4丁目 2番7号
TEL 078(802)5990 神戸市委託 病児保育室プエリ 併設

医療法人 **なかじま整形外科**

●リウマチ科 ●リハビリテーション科

院長 中 嶋 洋 (49期)

〒569-0814 高槻市富田町3丁目1番10号
☎ 072-690-3230 FAX 072-690-3231

私とウエイトリフティング

山内 英雄(40期)



初出場の年齢別世界大会で優勝

にバーベルを担ぐ)をしたり、雨の日は、部室の中で練習をしたことを覚えていきます。重量挙げ部の同級には、平田君、松尾君、正路君がいましたが、他の多くの運動部の部室が一所に集まっていたので、運動部の上級生・同級生・下級生とたいへん仲良く接することができ、今でも、交流が続いています。

中学時代は、学校が終わると日が暮れるまで毎日の様に野球をしていました。キャッチャーが大好きで、高校に入学すれば甲子園を目指し野球部に所属するつもりで入学後すぐに野球部に向かいましたが、運命というのか、重量挙げ部の二級先輩の門田宏昭先輩(山口県警刑事部長を最後に退職)に捕まってしまったのです。ちょっとこのバーベルを挙げてみると言う事になり、何もわからずに挙げてみたのですが、「お前、強いのか」とおだてられたり、また半ば脅かされるような感じで仕方なく重量挙げ部に所属していました。

このスポーツが私に合っていたのか一年生でインターハイに出場することができ、三年生の時には、その試合のことも全く思い出せないのですが優勝していました。毎日のように練習をしていましたが、どのよう練習をしていったのか、昼休みにはスクワット(肩

の時代のエピソードは尽きる事がございません。

そしてバブル時代終了後、ふとしたことでヨガの世界にはいることになったのですが、従来のヨガの世界に疑問を感じ、インドのヨガの聖地と言われている場所にも行き、健康方法としては全く確立されていないことを知り、自分で新しいヨガを作ろうと思い、ジャパンヨガカレッジを設立しました。おかげさまで「ジャパンヨガカレッジ」「YOGA」「リセット・トレーニング」「リセット整体」の商標登録をすることもできました。

そんな中、ウエイトリフティングの年齢別世界大会(ワールドマスターズ)が毎年行われ、次回開催国がポーランドで行なわれることを知りました。ポーランドには高校時代の同級生の岡崎恒夫君がワルシャワ大学で教鞭をとっていることを知っていましたので、世界大会に参加し、彼と会う事を楽しみに、42年ぶりにウエイトリフティングを再開することにになりました。なんと日本での予選を通過し、大会に臨んだ当日、彼が早起きし、おにぎり持参で会場に応援に来てくれた事、そして優勝し、日の丸を見ながら国歌を聞き、感激した事を今でも鮮明に覚えています。また先日、東京で行われたワールドカップにも一級上の江尻武先輩がフェイスブックを見られ、わざわざ応援に来ていただきました。実に47年ぶりでした。ウエイトリフティングを続けていければこそ、私は楽しい思い出ばかりなのですが、私にケガばかりしております。

皆様方には絶対にお勧めできないスポーツなのですが、やめられません。機会があれば、ぜひ一度、応援に来ていただけることを楽しみにしています。

「通学の思い出」

山崎(徳永)しのぶ(62期)

今にして思えば、下関西高の体育祭は何故だか出身地対抗だった。下関市を東西南北に分けるのである。南部の都会さに比して、北部は山陰本線の下り途中、風光明媚といえは聞こえは良いが、果ては日本海まで到達する。北部チームは当時の体育祭で圧倒的強さを誇っていた。田舎で娯楽施設もなく、自然の中でガンガン遊んでいたから、出身学生の基礎体力が違うのだから……と。当時一部で「農協パワー」と呼ばれていたらしい。

さて、その北部出身の私の最寄り駅は「吉見」。「梅ヶ峠」「福江」という二つの無人駅に挟まれた、これまた田舎の誉高いところである。体力のある田舎者にだって弱点はある。都会のストレスだ。慣れない電車通学、高等学校教育の内容の高さ、私は常に眠く、電車内では座っているときは勿論の事、立っている時も吊り革に腕を絡めて固定し眠ることができた。

当時、山陰線のダイヤは、上りも下りも一時間に二本。目指す便に遅れば遅刻を回避する手段はない。それでも私はいつもギリギリで駅に駆け込んでいた。そのギリギリも色々な要因が作用する。空き地に自転車を止めるスペースが見つからない、雨が降っていて車が多くの信号がなかなか変わらない、いつもより荷物が多い等々。

ある日、その日は正にギリギリ度が極まっていたのだらう。駅に向かう私に駅員さんが外まで出てきて「早く！君を待っているよ！」在学中にさして遅刻をしていない私は、この駅員さんに配慮いただいていた事が大きいのかもしれない。駅員・運転手さん共、出発調整の限界にいたのだから……と。有難くも申し訳ない、田舎の駅ならではの出来事。

以降、私のギリギリ癖が治ったか、といえは多分治らなかつたと思う。今現在、高校生の息子がやはりギリギリで家を出て行くあたり、何らかの遺伝なのだらう。



自作の油絵をバックに

「川がなすめ」最近の下関

阿部 紀一郎(54期)

関西のメンバーにお勧めしたいスポットを紹介いたします。

四月三〇日、豊前田の旬菜鮮魚・おばんざいの店「年年歳歳」にて下関在住同窓生の市役所B君、商工会議所メンバーO君、会社員K君に取材したものです。

長府博物館

これまでは功山寺境内に隣接していたが、平成二八年秋(一〇月)と聞きました)に功山寺門前に新設される。現在は閉館中。

みもすそ川別館

(みもすそ川古美術館) オナーの故西山音治氏のコレクションを展示。宿泊者以外でも入館鑑賞できる。

蛸遊館(長府製作所記念館)

壇具川沿い。長府製作所の歴史を下関の歴史に重ねて紹介。日本庭園を臨む喫茶店も落ち着く。

HUMAN-WARE 株式会社ヒューマンウェア

1 ホームページ診断 ホームページクリニック 現状のホームページの改善点を調べたい	2 ホームページ制作 初めてホームページを作成したい リニューアルを検討したい
3 ネット通販サイト構築 商品にあったデザインにしたい 携帯・スマートフォン対応にしたい	4 レストラン・飲食店「ネット予約サイト」 時間単位の予約ホームページが欲しい クーポン機能が欲しい
5 会員制ネット取引サイト制作 会員専用のログイン制限をかけるサイトを作りたい 会員をグループ化して特典で差別化したい	6 ネット受注サイト構築 大幅なコスト削減と可能な限り自動化したい 注文の記入ミスや転記ミスで困っている

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9番地 神田第三中央ビル2F
TEL:0120-44-7512 FAX:0120-45-7512 <http://www.human-ware.net>

旭陵同窓会関西支部のホームページを担当させていただきます 48期 藤村 徹

おいしさの感動をお伝えする!!

黒毛和牛専門店
(神戸ビーフステーキ、しゃぶしゃぶ、焼肉)

(株) 味 鉄

〈直営レストラン〉
・舞子 ・三宮 ・本山 ・西宮 等神戸一円10店舗 ・(東京)赤坂店
日本一の神戸牛で、ゆっくりグルメの世界をお楽しみ下さい。
お中元、お歳暮には地方発送もいたします。お気軽にご相談下さい。

常務取締役 舞子店長 安田好幸(43期)

舞子店 神戸市垂水区東舞子町2-21(JR舞子駅すぐ)
TEL 078-783-3520 アドレス <http://www.k-wind.ne.jp/ajitetsu/>



西高新聞部時代の思い出

門田 幸(43期)

西高入学が決まってすぐに、中学時代の山根賢一郎先輩が自宅を訪ねてきた。西高でも先輩になる山根氏は「西高新聞の編集がすぐに始まる、取材につきあえ」と言う。まだ入学式前のことである。

というところで、部活は入学前から始め、2年間で終了。当時、西高では「新聞部」ではなく、生徒会とは別の、「新聞編集委員会」となっていた。「委員会」であれば、選任されなければいけないと思うのだが、基本的にはクラブ活動と同じで、自主参加、ただし活動費は、「新聞代」として、生徒全員からいくらか徴収、後は広告代でやっていた。以後面倒なので「新聞部」という書き方にする。

当時の部室は、運動場の東南角、音楽室の北屋外にあった。部室は板壁で半分に仕切られ、半分は演劇部、もう一部屋を新聞部と文芸部が共同で使っていた。

私が三年生の時だっただろうか、校舎内のトイレを改装した単独の部室が与えられた。部室が教室に近かったこともあり、ほとんど部室にいたように思う。

原稿集めから広告のお願い。広告をいただくために、茶山通り、豊前田通り、唐戸の商店を、一年の時は先輩と、二年になると後輩と夜遅くまでお願いに回って歩いた。

記事も、できるだけ生徒の声を反映させようと、依頼記事を集めたり、アンケート記事を書いたりしたが、依頼記事、アンケートに頼りすぎたという批判が生徒会の会報に出た。生徒大会の時に、反論の意見を述べたことがある。

原稿が集まり次第、内容チェック、誤字修正、紙面の割り付けをし、御裳川にある印刷所に持って行く。今の様にパソコンで紙面を作るわけではない。活字を拾い、紙面を組む。大きな飾り文字の見出し、写真は、凸版を作る。日を改め、ゲラ刷りの校正に行く。原稿が正確でも、活字を組む時点での間違いも起きる。見出しがまずければ、凸版を作り変えなければならぬ。その分費用がかさみ、時間もかかる。

当時南高の新聞も同じ印刷所で印刷していた。たまに印刷所で南高の新聞部員と一緒にいることがある。ゲラ刷りが上がってくるまでの時間、休憩所に置かれていた卓球台で一緒に卓球をすることが楽しみだった。今考えてみれば、休憩所とはいえ、社員が仕事をしている最中に卓球をしていることは不謹慎だったかもしれない。

西日本新聞主催の「高校新聞コンクール」があり、何度か入賞した。ただ金賞は一度もない。

年に何度か、市内の各高校の新聞部員が集まり、「高校新聞批評会」というのが、各校持ち回りで行われた。紙面の出来具合を批評しあうのだが、ある時、私がT高の記事の内容を批評した。その時、「内容について他校にとやかく言われたくない、紙面の割付等だけにして欲しい」と言われたことがある。

二年生になってすぐだったか、県内の大津高校新聞部からの訪問を受けた。女子3人、男子2人。こういう話をしたのは全く覚えていない。

中国新聞社から、「高校生の大学訪問」という内容の連載があるので、記事を書いて欲しいとの依頼があった。「水産大学校」を訪問し、記事を書くということだ。一年生の佐中君と水産大学を訪問し、学長と面談。この時、中国新聞の記者と、顧問の先生は当然同行したと思うのだが、何故か記憶に残っていない。掲載された新聞も残っていない。新聞社には残っているだろうか。

私が編集長としての最後の新聞は1965年2月24日発行の97号である。この卒業生を送る先生の写真を、初めて似顔絵にした。一組三組の担任を吉沢茂木君、四組六組を安田好幸君にお願いした。100号の発行は1965年11月。二年生の佐中君が編集長で、私はタッチしていない。ただ、短評欄の「頓珍感」を書かせてもらった。何年か前、号数一つ飛ばして発行したため、今回の100号は、実際には99号だと書いた。

部室には古い西高新聞が残っていない。100号発行に当たり、過去の新聞を探そうと、南高の新聞部室を訪ねた。部室には共学時代はかなり古いものが残っており、許可を得て2部ずつ持って帰った。と言っても部室に保管できないので、整理して下田衛先生にお願いし、図書館で保管していただくことにした。

三年生の12月、南高新聞部と合同で、八幡の皿倉山に行った。写真を見ると、西高9人、南高10人(内先生1人)。ハイキングにも関わらず、こちらは全員が学生服。最初で最後の合同行事だった。これが西高新聞部での最後の活動となる。

西高今昔

阿部 紀一郎(54期)

「西高今昔」(第3回)

大正9年(1920年)4月15日、私たちの「旭陵」は、下関市立下関中学校として誕生しました。百周年に向け、その歴史を振り返ることとします。

今回は四回シリーズの第三回目で、昭和26年の野球部甲子園出場以降昭和37年頃までです。内容は同窓会発行の「下関西高六十年史」「創立75周年記念誌」から抜粋転載させていただきます。

前掲掲載の野球部の甲子園出場に関して、少し詳しく記しておきます。

部長は中沢時雄(19回・故人)、監督は旧制小倉工業学校のエースとして活躍し甲子園出場の経験があった酒井保雄。重い球質と抜群のコントロールの橋本順一(29回・故人)を中心としたチーム。当時、チームの主将を務めた保良英夫(29回)は山陽大会を振り返って「決勝大会では西高ブロックには進進商、柳井高、基町高が集まり、一方のブロックに優勝候補の尾道西、下関商業、観音高、光高が集まったのもラッキーだった」と語っている。

とはいえ、決勝で優勝候補尾道西を破り甲子園夏の大会初出場を決めたのである。

昭和26年はそのほかにも重量挙げ(ウェイトリフティング)で丹田正敏(29回・故人)も国体に出場している。他のスポーツのように経験を積んだコーチもいない中、部員同士の自己修練で技術を高める以外ない中で掴んだ山口県代表であった。

テニス部は木村道夫・佐島廣一(29回)が西日本庭球選手権大会に優勝し全国ランキング四位にノミネートされた。佐島によると「西高入学時は終戦後の混乱期で

校舎の窓ガラスが割れていたのが強く印象に残っている。テニスコートも防空壕と化してその間にはさつまいもが植えてあった。それを部員で土をうずめてやっと一面使用できるようになると上級生のみがラケットを振って練習しています。二年生のころからラケットを振りましたが、ボールも少なく、穴が開くとチューブを張り練習用になりました。ネットは一面しかなく、ポールとポールの間にロープを張って練習するという状態でした。その中で練習に練習を重ねた結果が出ました」と回顧している。

昭和27年、「高校再編」が話し合われ、翌年、二、三年生は共学、新入生男子は北校舎、女子は南校舎に配置された。生徒会や各種行事は合同で運営され、南校舎の内藤尚(31回)が生徒会長に選出された。

この年、共学最後の運動会が行われた。三年生は男女でフォークダンスを踊るのが恒例であったがそれもこの年が最後となった。

昭和29年3月の西高新聞主張欄には「西高さよなら」と題する記事が掲載された。

4月からは現在の西高としての始まりだったといえよう。つまり下関高等女学校と合併し下関西高等学校となった西高は、下関西高等学校と下関南高等学校に完全分離した。また、この年から「補習科」も開設された。

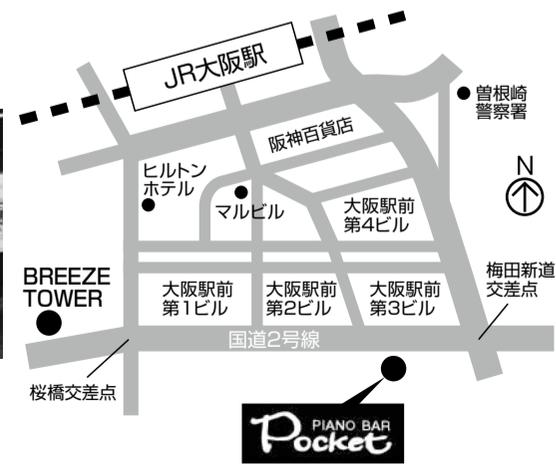
同窓会もそれまでの関中・西高の「旭陵」と関女・南高の「翠ヶ丘」という呼称を合わせた「旭翠」の名称が使われていたが、それぞれの名称を使うことになった。

同年には生徒会の意向をもとに再編の意向調査が行われた。南北学校自体の分離希望が55%、現状維持が45%。(別の観点から)男女共学が34%、別学が65%であった。(次頁へ続く)

旭陵同窓会の皆さま
ポケットです
よろしくお願いたします



PIANO BAR
Pocket



〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地1-11-19(北新地スタービル9F)

COFFEE & JAZZ
Cafe MINT
カフェ・ミント
大阪市北区梅田2丁目5-2 新サンケイビルB1
Tel. 06-6341-5047



Cafe time 11:00-17:30
心地よいジャズが流れる店内で、
薫り高いコーヒーを
ゆっくりとお楽しみください。

Bar time 17:30-22:00
手作りのお料理でおもてなしします。
ジャズライブも不定期で開催。
土・日・祝日もパーティーの受付をしています。

濱岡 睦子(はまおか ちかこ)
(59期)



生徒の意向は分離・別学が多数であった。

後日談として、学制改革そのものは占領軍の政策であり男女共学の民主教育がすすめられた。しかし当時、下関地区を統括したのは連合国軍の中では比較的緩やかな占領政策をとった(日本に理解を示した)ニュージージーランド軍であったこともこの当時の分離・別学に落ち着いた理由の一つではないかと。

スポーツでは、北海道国体テニスで、牧野・井上組が3位入賞した。

昭和30年秋、校内文芸誌「脈動」が旺文社全国高校文芸誌コンクールの第一位を獲得した。

「脈動」は西高文芸部が昭和28年に創刊したもので、創刊3号で早くも頂点に達したわけであるが、2年後の33年、さらに35年度と合計3度の栄冠に輝くこととなる。

昭和33年の図書館の改築以降、体育館、プール、理科棟の新設と教育施設整備も着々となされていく。

同窓会東京支部が初代支部長に平山清光(1回・故人)を選出して昭和35年に誕生。

関西支部も翌36年、当時(株)大洋漁業大阪支社長だった中部兼次郎(8回・故人)を会長に推挙され、産声を上げた。

同年、重量拳の山内英雄(40回)が秋田国体で六位入賞。その後も県下で優勝を重ね、昭和38年第18回山口国体へ出場、重量拳会場の向洋中学校体育館で地元勢の応援を受けつつ技を競った。

昭和37年には待望の西高校校歌『風師山さ霧晴れ行き』が発表された。作詞は東京大学文学部教授だった五味智英、作曲は当時日本洋楽界を代表する作曲家の平井康三郎だった。

(次号に続く)

下関西高新聞今昔

第96号(昭和39年12月23日発行)



第248号(平成27年12月15日発行)



西高今昔(番外)

阿部 紀一郎(54期)

私事で恐縮だが、24年前、結婚の許しを請うべく家内の実家へ行き、のちの義父に「下関西高の出身である」ことを告げた。

義父はその瞬間立ち上がり、私の顔を指さし、眉を吊り上げ「お前あの下関西か!」と驚愕の大声を浴びせた。そう、義父は当時、尾道西高の応援団で、甲子園出場を逃したまさにその場にいた男だったのだ。

私の母も当時下関西高合唱部長

創立百周年に向けて

旭陵同窓会幹事長 判野 充昌(37期)

関西支部の皆様には日頃より温かいご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さてわが母校は1920年(大正9年)に「下関市立下関中学校」として設立され、その後校名変更後「山口県立下関西高等学校」として今日に至っており、2019年(平成31年)に創立百周年を迎えます。

このため、旭陵同窓会、旭陵教育会、学校、PTAの四者で「学校創立百周年記念事業実行委員会」を創設し現在まで18回開催し具体的に検討を重ねてまいりました。現在までまとまっています。次の方針について簡単にご報告申し上げます、この実現のために更なる皆様のご支援をお願い申し上げます。

一、記念事業

- ①旭陵館(セミナーハウスの建設)
・現在建物見積もり書等取りまとめ中であり、取りまとめ次第諸手続きを行い着工する予定としております。
・建設のために必要となるプールの取り壊しは平成29年度学校で実施する。
②百周年記念誌の発行
・現在の75周年記念誌を上刊とし別途25周年を取りまとめとして発行する。
③その他記念事業
・式典・祝賀会・後援会等を行うこととしており具体的には今後検討することとしております。

二、記念事業資金の調達について

①旭陵教育会の基本財産九千三百万円のうち「旭陵館」建築のため四千三百万円を取り崩し充当する。

- ②募金にて資金を調達する。
・募金は個人(一口)一万円、法人(一口)五万円以上とする。
・募金開始は平成28年後半を目途に現在税額控除の手続等鋭意作業を行っています。なお、募金の募集期間は原則一年(一年延長可能)となっております。

三、同窓会名簿について

- ①昨年末に名簿は完成し申し込みされた850名の方々に発送しています。
②収支採算上、一千部の販売が必要である。是非購入していただくようお願い申し上げます。
③13年ぶりに名簿を再発行しましたが、誤字や掲載ミス等不備な点を多々指摘されました。心からおわび申し上げます。次回はより完全なものを目指して努力するつもりです。

以上、現在までの取り組み状況等について申し上げます。記念事業の達成には資金が必要であります。同窓の皆様には母校の発展のため一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

旭陵同窓会関西支部役員

Table with columns: 役職, 氏名, 任期. Lists members of the Kansai Branch Executive Committee.

関西支部事務局(大野 浩史) 〒669-1347 三田市つじが丘南4丁目16番14号 TEL・FAX: 079-568-1535 Email:hirosi.ohno0828@gmail.com

訃報

- 福原 榮さん(33期) 2012年2月7日ご逝去
重岡 敏雄さん(33期) 2015年2月7日ご逝去
小原 俊彦さん(33期) 2014年11月ご逝去

編集後記

「君だったらどう考える?」いつも会社で後輩に発する言葉に反応がないときはがっかりして言葉を失います。講演いただいた桐村先輩との差は「信念」なのでしょう。大きな背中を感じました。もう一歩踏み込みます。

「通学の想い出」は素敵でした。また、西高今昔を調べていくうちに、「西高生」を周囲が温かく見守ってくれ、それにこたえなければならぬと感じた青春時代。古くも新しくも、「旭陵」は単なる「進学校」ではないことを改めて感じました。「noblesse oblige」

編集委員の皆様、特に柴田徹也さん(64期)には助けていただきました。さらに富士精版印刷(株)の中野さん(48期)には編集計画、編集、校正など会社上げてご協力賜りました。多謝。(阿部記)

お知らせ

- 第32回ゴルフコンペ
日時: 10月22日(土)
場所: 花屋敷ゴルフ倶楽部
第30回ハイキング
日時: 11月6日(日)
場所: 未定
日帰りカニ旅行
日時: 来年1月29日(日)
場所: いつもの「源助」